

平成 29 年度 第 6 回理事会議事録

日 時:平成 29 年 12 月 3 日(日)14 時 00 分～16 時 05 分

場 所:鳥取生協病院 会議室

出席者:湯田範規、岡田早苗、藤原弘光、藤井和晃、先灘浩功、西村令子、那須野邦彦、中井宏衛、
木下敬一郎、佐々木崇雄、下廣寿、佐々木豪、山根由美、青戸俊輔、田中雅彦、山岡貴子、
北野岳之(外部監事)[出席:17 名/20 名中]

欠席者:野上智、片岡憲一、吉岡明

議 長:湯田範規 書 記:佐々木豪

議事録署名人:田中雅彦、青戸俊輔

一般社団法人鳥取県臨床検査技師会定款第 5 章第 29 条により理事会を招集し、定款第 5 章第 31 条により理事会が成立した。

議題 1 報告事項(各部)

学術部経過報告(藤原弘光)

I 報告事項

1) 第 43 回鳥取県医学検査学会(10 月 15 日):参加者 86 名

2) これまでの学術事業予定と現在の進捗状況

学術部研修会:接遇・エチケット研修会が未定

アボットジャパン株式会社に講師派遣依頼し回答待ち。

3) 日臨技生涯教育推進事業の状況報告

日臨技生涯教育推進事業として 11 件申請し、うち 9 件の決算報告書が作成完了した。第 3 回生理機能検査部門研修会(10 月 28 日)、第 2 回生物化学分析部門研修会(11 月 3 日)の 2 件の研修会は日臨技の承認が得られ 11 月 27 日に振込予定である。助成金額目標 30 万円を少し超えたところである。あと可能なところでは第 1 回総合管理部門研修会と第 2 回総合管理部門研修会についても日臨技申請を行っている。

ステップアップ研修会も申請予定である。

4) 鳥臨技の PC・プロジェクターの管理

西部地区:原前学術部長が保管・管理していたものは、吉岡理事が引き続き鳥大で保管・管理する。→備品台帳の修正が必要。

東部地区:佐々木豪理事

中部に鳥根県から譲り受けたプロジェクターがあるのか、什器備品台帳で確認をする。

5) 日臨技臨床検査精度管理調査(鳥取県)データを用いた研修会について

日臨技に伺い文書(スライド添付)送付し、日臨技執行理事会(11 月 18 日)にて審議の結果、研修会開催が了承され、第 1 回総合管理部門研修会の開催が可能となった。

6) 第 50 回中四国支部医学検査学会(11 月 10 日)

前日会議出席:藤原副会長、福田生物化学部門長(中四国支部生物化学部門研修会が来年度鳥取県担当の為)

7) 第 67 回日本医学検査学会座長候補者推薦依頼(生理機能検査、感染制御 各 1 名)

県内締切 11 月 30 日(木)→学会運営事務局締切 12 月 4 日(月)

生理機能検査:石垣宏之技師(山陰労災病院)

感染制御:仲田佑未技師(鳥取大学医学部附属病院)

II 来年度事業計画策定について

・来年度事業計画・予算案の提出期限:平成 29 年 12 月 15 日締切

締切 1 ヶ月前に各部門長に依頼した。来年度事業計画・予算案立案の際の考慮頂きたい点を伝えた。

調整後平成 30 年 1 月 20 日の第 7 回理事会にて協議し、承認を得たい。

III その他

日臨技精度管理結果サポート事業助成研修会の開催について

・日臨技サーベイにおいて「C・D」評価施設へのサポート事業として、都道府県技師会精度管理委員および研究班ならびに基幹施設の技師が一緒になり、意見交換を行う結果検討会。詳細はまだ日臨技から届いていない。日臨技に聞いて方向性があれば来年度事業としてあげる。

学術部事業開催準備手順書について

・今回の理事会で協議としては用意していないが、聞いてみたいところは抜粋してコメントとした。

・原案は前学術部長が作成したものである。部門長・部門員から、4 月の学術説明会は説明不足なのでまずは説明会を開いてもらわないといけないうのと、手順書(財務の会計に関しても)を示してほしい。役員も大幅に入れ替わりどの様に進めていけばいいのかわからない事が多い。

・学術担当者会議が細則にはあるが、今までそんなに開かれていない。

・検査研究部門研修会開催手順の鳥臨技の費用上限 30 万となっているが 3 万である。

・鳥取県医学検査学会の合意事項案となっているが、細則との整合性がとれていないので要検討である。また、「演題は各施設 1 演題以上を割り振りする 5 月総会時に一般演題指定発表してもらい施設を指定する」というのはどうなのか気になる。

・部門長・部門員に出す前に、全理事が学術部事業開催準備手順書を見直し、12 月 10 日までにメールで佐々木崇雄理事に送り集約してもらおう。佐々木崇雄理事→藤原副会長→各部門長(部門員については湯田会長と相談/締切 1 月 4 日)→藤原副会長→佐々木崇雄理事→各理事→佐々木崇雄理事(理事からの意見を集約)。最終的に理事会で通す。修正案が複数あり、判断に困るものは三役に確認する。

・学術担当者会議は 1 月 28 日のステップアップ研修会終了後の開催で検討する。構成員は学術部長、学術担当理事、精度管理委員長、編集委員長、部門長である。部門長が出席できない場合は、部門員に出席して頂く。

研修会の行事一覧について

・研修会によって第〇回研修会となっていたり、回数表示のない研修会がある。

形態検査部門では分野が分かれており担当者が第〇回か分かり難いので、前学術部長が回数を管理されていた。開催回数は部門長で集約してもらおう。

・第 2 回学術部研修会(10 月 15 日)は学術が担当の為、学術部研修会としている。

・第 1 回学術部研修会(eランニング)は全会員を対象としていない為、研修会ではないとの会員から意見があがった。

ステップアップ研修会(第 3 回学術部研修会)

日時:平成 30 年 1 月 28 日(日)9 時 30 分~13 時 00 分

場所:鳥取厚生病院 会議室

・講師に、講演順番・意見等ないか聞いたが特に何もなかった。生涯教育は専門である。

渉外調査部

全国「検査と健康展」(下廣寿)

日時:平成 29 年 11 月 23 日(木)

・健康チェック来場者:85 名と記載しているが 1 名分の結果表が回収できておらず、実質は 86 名の健康チェックを行った。昨年度は 85 名でほぼ同様であったが、来場者年齢は若返った。アンケート集計は未だだが、新聞の折り込み広告を見て来場された方は昨年より減り、今年度は、会場での勧誘によって受けて頂いた方がほとんどであった。また厚生病院でチラシを見て来場された方がおられた。中高生の職業体験は 1 名実施した。

・イオンの方が視察に来られ、今回の催しを来年度にイオンでの開催依頼を受けた。来年度も引き継ぎ行うのであれば、次回は西部の順番であるので、交渉してもよいか。

・湯田会長を含めまずは話をきかせてもらい、来年度はイオン(日吉津)開催での方向性で進めていく。イオンの都合もあるので、こちら側の日程で進まないかもしれない。エコー機器の確保等もあるので、なるべく早く日程調整が必要である。

市民健康ひろば(田中雅彦)

日時:平成 29 年 11 月 23 日(木)11:00~13:00

場所:市民会館

内容:血糖測定 118 名

・8 名の技師とニプロの方 1 名の 9 名体制で行った。来年度も要請されたが、他の催しとブッキングしないよう段取りをする。「市民健康ひろば」の日程は変更できないので、「検査と健康展」の日程を調整する。来年度の日程わかれば、報告をする。

事務局(藤井和晃)

・叙勲推薦の申請者はなしと、県に報告した。

財務部(西村令子)

・学術部以外の、各部の来年度予算を 12 月 15 日までに提出する。

・公益目的支出計画の実施完了し、10 月 18 日付で鳥取県から書類が届いた。(岡田)

・第 2 回、第 3 回東部感染制御地域支援ネットワークに技師会会長代理で岡田早苗副会長が出席した。(岡田)

議題 2 研修会補助金制度規定(案)について(提出:藤井和晃)

原案からの変更(案)

・対象 2.検査研究部門長または部門員であること。→(削除)

3 希望者がなかった場合には、時期を考慮し再度募集を行う。→(追記)

3(1)中国地区部門研修会→日臨技中四国支部部門研修会

3(2)優先する。→優先するが、他部門からの希望者がいない場合に限り、予算を超えない範囲で同部門の複数参加を認めることができる。

・条件 1.全国検査研究部門→(削除)

- ・金額 1.交通費、宿泊費(宿泊費は1泊8000円を上限とする)→(追記)
 - 2.宿泊費は研修会会期中および交通手段上必要と認められた前泊、後泊に限る。→(追記)
 - 3.研修会参加費と交通費との合計→研修会参加費、交通費、宿泊費の合計
- ・申込方法 検査研究部門長または部門員→会員
- 報告 1.参加領収書、交通費領収書(いずれもコピー可)を添えて学術部長に報告すること→参加領収書、交通費領収書、宿泊費領収書(いずれもコピー可)を添えて学術部長に提出すること
 - 3.参加者は補助金受領後、研修会参加補助金領収書を鳥臨技事務所に提出すること。→(追記)
- ・その他 この要綱の変更は学術部会が発議し、理事会に提案しその決議によらなければならない。→規約の変更 この規約は、理事会の議決を経なければ変更することができない。
- ・付則 2.平成30年4月1日 一部改定→(追記)
- 検討後変更点
 - ・対象 2.検査研究部門長または部門員であること。→(削除)
 - 3 学術部長が募集して理事会に報告する→学術部長が募集して理事会にて決定する
希望者がなかった場合には、時期を考慮し再度募集を行う。→(追記)
 - 3(1) 中国地区部門研修会→日臨技中四国支部部門研修会
 - 3(2) 優先する。→優先するが、他部門からの希望者がいない場合に限り、予算を超えない範囲で部門の複数参加を認めることができる。
 - ・条件 1.(一社)日本臨床衛生検査技師会主催の全国検査研究部門研修会→(一社)日本臨床衛生検査技師会主催(共催含む)の研修会
 - ・金額 1.研修会参加費→研修会参加費、出張規程(行動費を除く)に準ずる。
 - 2.宿泊費は研修会会期中および交通手段上必要と認められた前泊、後泊に限る。→(追記)
 - 3.研修会参加費と交通費との合計が50,000円を超える場合には、合計の上限を50,000円とする。→研修会参加費、交通費、宿泊費の合計が50,000円を超える場合には、合計の上限を50,000円とする
 - ・申込方法 希望する検査研究部門長または部門員は、研修会参加補助金申請書を学術部長に提出して申し出ること。→希望する会員は、研修会参加補助金申請書を開催1.5か月前までに学術部長に提出して申し出ること。
 - 報告 1.参加者は、研修会終了後2週間以内に参加証、参加領収書、交通費領収書(いずれもコピー可)を添えて学術部長に報告すること→学術部長は研修会参加補助金申請書を会計に提出し、会計は速やかに支払い処理を行うこと。
 2. 学術部長は研修会参加補助金申請書および上記書類を会計に提出し、会計は速やかに支払い処理を行うこと。→参加者は補助金受領後、研修会参加補助金領収書を財務部長に提出すること。
 - 3.参加者は、研修会終了後2週間以内に参加証、参加領収書(いずれもコピー可)を添えて財務部長に提出すること→(追記)
 - ・その他 この要綱の変更は学術部会が発議し、理事会に提案しその決議によらなければならない。→規約の変更 この規約は、理事会の議決を経なければ変更することができない。
 - ・付則 2.平成30年4月1日 一部改定→(追記)
- ・参加者は理事会で決定するが、間に合わない場合メールでやり取りし次回の理事会で承認を得ることもある(湯田)

議題3 他県への研修会案内について(提出:藤井和晃)

- ・鳥根県技師会所属のスタッフが米子市近郊な為、鳥取県の研修会の案内をしてほしい
- ・以前は研修会の案内は近隣の県にはほとんど出していたが、最近は出していない。近隣の県からきている研修会の案内も全てがきている訳ではない。
- ・鳥根の方が鳥取の研修を受けた時に、研修会担当者に負担が増えなければいいのだが。(田中)
- ・開催県の事務局が生涯教育登録を行う。
- ・鳥臨技のホームページをアップしているの、ホームページをみてもらう事とする。【決定】
- ・県内研修会の案内はFAXでお知らせしているが、今後はホームページをみてもらう方向でいいのではないか。【検討事項】

議題4 鳥臨技事務所の合鍵について(提出:藤井和晃)

- ・合鍵を追加で作製するか、現在の状況で貸し借りをするか確認。
- ・合鍵を誰が持っているのか管理できていない。確認をしたところ渡部さん含め6名が所持している。
- ・合鍵を元理事の方が持っている可能性はある。
- ・マスターキーの行方が不明となっており、合鍵を作製するにはマスターキーが必要な為すぐには作れない。
- ・マスターキーについては関係した人に確認する。
- ・トラブルにならない様、新たな鍵を作り直した方がいいが2階の共有部分の鍵があるので変えれない。
- ・賃貸契約書の確認をする。
- ・現状では鍵を持っていない方が事務所に入る場合は、当面の間は鍵を持っている理事に連絡し事務所に入る。(藤井)【決定】

議題5 その他

- ・日臨技精度保証で、日臨技のシステムを利用して鳥取県の精度管理の結果は入れているがダウンロードできない。鳥取県を含め全国で日臨技からダウンロードできない都道府県が十何県かある。鳥取県も他県に合わせてダウンロードできたほうがいい。使用する為に費用が発生するなら来年予算化も必要である。(岡田)
- ・精度管理報告書が終わってから、精度管理委員会で集ってもらい反省会を開催し来年度どうするか精度管理委員長に依頼した。(湯田)
- ・会員名簿を出してもらえないか。どこの施設に誰がいるのか分からない。(藤原)
- ・会員の承諾をとらなければいけない。名簿に載せるなら、施設名と担当部門で会員番号は出さない方がいい。
- ・先日の中四国時の連絡会議で、来年度から医学検査学会でのB5版抄録集は来場者のみに会場で配布される。(日程:11月24日~25日/香川県)(湯田)
- ・他県への日臨技研修会の参加について、鳥臨技会員でも参加費は参加した県の技師会員と同等の取り扱いを受けると確認した。(湯田)
- ・日臨技中四国支部長 丹下支部長、四国 土居理事が退任する。(湯田)

次回理事会:平成30年1月20日(日)

以上をもって議事を全て終了し、16時05分に閉会した。

この議事が正確であることを証するため、議長および議事録署名人は次に署名、捺印する。

平成 29 年 12 月 11 日

議 長 湯田 範規 ⑩

監 事 北野 岳士 ⑩

山岡 貴子 ⑩

議事録署名人 田中 雅彦 ⑩

青戸 俊輔 ⑩